

## 第6課 偉大な教師からのさらなる教訓

### 【暗唱聖句】

「そこで、イエスは言われた。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った」 マルコによる福音書 10 章 52 節

### 【日曜日・隠れる代わりに】

アダムとエバが食べてはならぬと命じられた木の実を食べた後、主なる神が園の中を歩く音が聞こえると、主なる神の顔を避けて園の木の間に隠れました。主なる神はアダムに対して、「どこにいるのか」(創世記 3 章 9 節)と尋ねられます。全知全能の神が、アダムがどこにいるのかわからないはずがありません。この問いは、アダム自身に罪の結果をすべてが変わってしまったことを悟らせようとしているのです。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから」(創世記 3 章 10 節)とアダムは言います。ここからわかることは、①主なる神から隠れなければならなくなってしまったこと。②主なる神が恐ろしくなったこと。③自分が裸であることがわかったこと。これが罪の結果であるということです。つまり、罪の結果、神様との平和な関係を失い、罪を隠さないと生きていけないみじめで無力な存在となってしまったということです。「どこにいるのか」との間は、アダムにこのような罪の結果を招いたことと共に、自分がどこにいるのかわからなくなり、神様から離れて彷徨うものとなってしまったことを主は悟らせようとしているのです。そして、この間は、人類に対する間でもあるのです。

またパウロは、アダムとイエス様を関連付けています。「**実にアダムは、来るべき方を前もって表す者だったのです**」(ローマ 5 章 14 節)。一人の人アダムから全人類に罪とその結果の死が入り込んだように、罪の赦しと救いは、一人の人イエス様から来るのだと教えています。

「一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされるのです」ローマ 5 章 19 節

最高の教師であるイエス様は、命をかけて救いへの道を教えられたのです。

### 【月曜日・逃げ回って】

ヤコブは自分の過ちから兄エサウを激怒させ、家を出て逃げなければならなくなりました。ベエル・シェバを立ってハランへ向かう途中、ヤコブは不思議な夢を見るのです。それは「先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上ったり下ったりしてい」(創世記 28:12)る夢でした。そして、主が傍らに立って、ヤコブを祝福すること、決して見捨てないことを約束します。夢から覚めた後、ヤコブは恐れおののき、「ここは、なんと畏れ多い場所だろう。これはまさしく神の家である。そうだ、ここは天の門だ」(創世記 28:17)と言います。この天と地をつなぎ、有限な人間を無限の神様とつなぐはしごは、イエス様を現わしています。人生の教師であるイエス様は、天と地をつないで弱い私たちを守り支えて下さいます。本当の教師はただ教えるだけでなく、教え子たちを自ら守るのです。

イエス様はナタナエルとフィリポに、「はっきり言っておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる」(ヨハネ 1:51)と言われました。天と地はイエス様はイエス様のおかげでつながっています。これは現実であり、私たちも知らないうちに経験していることなのです。それゆえ、問題が行った時に、地上を逃げ回らなくても良いのです。イエス様であるはしごを使って天に逃げ込めば良いのです。

### 【火曜日・先生イエス】

イエス様はしばしば「ラビ(先生)」と呼ばれました。弟子たち以外の人たちも、イエス様に一目置いていたことがわかります。バプテスマのヨハネは、「自分には、この方のくつのひもを解く値打もない」と言うほどでし

た。エレン・G・ホワイトは「この世が目にした最大の教師」と表現しています。神が人となって地上に来られたのですから、人間にとってこれ以上の教師はいません。イエス様から学ばないで、いったい人は誰から学ぶというのでしょうか。イエス様の教えは、すべて正しく、人間が生きていくために必要なものであり、この地上のことばかりでなく天に属することも含まれていました。どんな優秀な学者も天について教えることはできません。誰も見たことがないので。また、イエス様は父なる神様を示されました。父なる神様を示すことができるのもイエス様だけです。ヨハネは「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった」と表現することで、聖書の御言葉に注目させます。聖書の御言葉を通して、今でも私たちはイエス様から最高の教えを学ぶことができるということです。

#### 【水曜日・女が言い返す】

イエス様は大切なことを教えるとき、しばしば生徒を試すことがありました。ティルスとシドンの町に行かれた時のことでした。「だれにも知れないように、家の中にはいられた」(マルコ 7:24) のですが、あるカナン人の女性に気づかれてしまいます。この女性の娘が病気で、イエス様に助けてもらいたかったようです。当時は女性に自己主張する権利が認められていないような時代でしたが、子どもを助けたい一心で救いを求めたのでした。ところがイエス様は「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところには遣わされていない」(マタイ 15:24) とか、「子供たちのパンを取って小犬にやっちはいけない」(マタイ 15:26) などと言って、彼女をはねのけるのです。2度もはねのけられて、ショックだったことと思いますが、それでも彼女は諦めません。「主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです」(マタイ 15:27) とって食い下がるのです。この女性の諦めない姿に、「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように」(マタイ 15:28) といわれ、娘を癒してあげるのでした。イエス様は彼女に意地悪をしていたのではなく、神様に願い求めるときは、決して諦めてはならないことを教えられたのでした。

#### 【木曜日・それを理解した生徒】

イエス様がエルサレムへ向かう途中、エリコに到着したとき、バルティマイという盲人の物乞いが「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」(マルコ 10:47) と叫びました。うるさいので叫ぶのをやめさせようとすると、ますます叫ぶのでした。カナンの人と同様に祈りがきかれる者というのは、決して諦めないという特徴があることに気づかされます。イエス様が、「何をしてほしいのか」と言われると、盲人は、「先生、目が見えるようになりたいのです」(マルコ 10:51) と言います。そこで、イエス様は彼の目を癒してあげます。すると、「盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った」(マルコ 10:52) と書かれています。イエス様は盲人に「あなたの道に行きなさい」(「Go your way」) と言われました。しかし、盲人は「なお道を進まれるイエスに従った」のです。英語では「followed Jesus on the road.」(NKJV) となっています。真理に目が開かれた者は、自分の道ではなく主の道、主が行かれる道に従うようになるということです。これが真の教育が目指す結果ではないでしょうか。